

令和3年10月16日

学校法人鬼木医療学園
国際鍼灸専門学校
校長 藤本武久 殿

学校関係者評価委員会
委員長 粕谷 大智

学校関係者評価委員会報告書

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 粕谷 大智 (東京大学医学部附属病院リハビリテーション部鍼灸部門長)
- ② 小林 潤一郎 (日本鍼灸師会理事、東京都鍼灸師会副会長 小林はりきゅう院院長)
- ③ 佐坂 浩二 (麗澤高等学校教諭)

教職員

藤本武久 (校長)、鈴木まみ子 (学科長)、西村静子 (教員)、豊田雄亮 (教員)、
川原田梓 (事務長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 令和3年10月16日 (会場 国際鍼灸専門学校 講堂)
15:00～17:05

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

審議内容

1 教育理念・目的・人材育成像

理念・目的・人材育成像特色ある教育活動、将来構想の設置について確認した。

人材ニーズや社会ニーズについて、同窓会の意見を聞く場や、同窓会との関わり合いが少ない。OBとの意見交換をすることは、就職の斡旋、学生の募集につながる。今後関係を密にし、学校と連携していく必要がある。また、今回のような、外部の意見を取り入れる機会を積極的に設けることが必要。

2 学校運営

理念等に沿った運営方針の策定、事業計画、意思決定システムの整備、情報システム化による業務の効率化などの取組みについて確認した。

東洋療法学校協会学術大会や全日本鍼灸学会等の学会・研修会への参加が出来ていない。研究発表などは学生にとっての刺激になり、モチベーション向上につながるので、学生の研究発表などの実施を進める必要がある。

ホームページなどを使った情報公開に向けた体制の確立が望まれる。

3 教育活動

理念等に沿った教育課程の編成方針の策定、教育到達レベルの明示、教育目的・目標に沿った教育課程の編成、キャリア教育の実施、授業評価を実施、成績評価の実施、資格・要件を備えた教員の確保、教員の資質向上への取組みなどについて確認した。

進路相談について、早期から卒業後のことを考えて学習できるように準備し、卒業後も長くつきあいを続けていけるような視点で進路指導に力を入れていくと、学校のメリットにもなると思われる。また、卒後の進路調査など卒業生の状況を知ることで、今後の課題なども見えてくる。学校としては今年度よりメールなどを使い、卒後生とのコンタクトを取っているが、更に効果的な方法を検討していきたい。

高校ではクラス LINE などを使って卒業生のデータ収集し、各卒業年度の生徒会長を代表にして、横のつながりを生かした連絡ネットワークを構築している。このような方法も一例として検討していくとよい。

総時間数について、実技授業を減らしたことは卒業後のことを考えると実技の力をつけた方がよいので検討が必要であり、実技を充実させることは大切である。学校としては実技も座学もどちらも重要であり、学生の中には仕事との両立が必要な者も多く、最適な時間数を探っており、今後も検討していく。

4 学修成果

就職率向上、資格取得率向上、退学率の低減、卒業生の社会的評価の把握について確認した。

これまでは退学・留年する学生が多いと感じる。本校の重要課題として、成績不振の早期把握、補講、保護者との連絡を密にするなどの対応を進めている。

就職率向上や卒業生の社会的評価の把握については同窓会との連携とも関連するので、今後の強化が必要。

国家試験合格率はアマ指が100%、はりきゅうが93.9%となり令和元年度から13ポイント回復した。これは教育訓練給付金制度の再認定にもつながる。

5 学生支援

進路・就職、学生相談、学生の健康管理、課外活動、卒業生、国家試験不合格者に関する支援体制などについて確認した。

進路・就職に強い学校になると入学希望者も増えるようになると考えられる。

卒業生が5000人以上いるのだから連携をもち、縦のつながりをつけていく。他校と比べると、同窓会活動が薄い。卒業生の質の向上、ネットワークの構築のために同窓会の専用HPなどにより発信していくが必要があり、また会場提供などを含め学校との協力も必要である。学校としても卒業生の活躍をPRし、あはきの魅力をどのように広めていくのか、学校の使命だと考えている。

学生への支援として、臨床心理士などによるカウンセリングも検討する必要がある。

国家試験不合格者には、申請により無料で授業に出席できる。当然、国家試験対策補講も出席可能である。また校内外の模擬試験もあり、それら全てを活用すると、高い確率で合格している。就職しての勉強は難しく、如何にこれらの学習機会を活用してもらうかが課題である。

6 教育環境

施設・設備、学外の実習施設、インターンシップ、防災に対する体制の整備などについて確認した。

本年度、立石校舎の改築が完成したので、整備された教育環境で学習できるのでよい。コロナ禍では防災訓練も縮小したものだということ、そういった時期でも、学生を含めた訓練を実施した方がよい。

海外への留学、提携などはないが、今後、意見が出れば考えていきたい。

7 学生の募集と受入れ

学生募集活動に関連したものについて確認した。

はりきゅうだけの学校でも定員を満たしている学校があると聞いている。都内で3つの

免許をとれる学校は希であり、駅から近く、校舎が新しい、3療の学校としては授業料が安いなどの強みをPRできるようにしてもらいたい。

社会人にとって重要な教育訓練給付金の制度が更新できず、それを利用したい入学希望者が減少したことは間違いない。来年度に向け、今年は認定が取れた。

社会人へのアピールとして、もっと仕事の内容をみえるようにしていきたい。また、就職先として最近では訪問マッサージが多いので、手技は重要で仕事として、もっとアピールする必要があると考える。

広報活動として、卒業生や外部の先生からの意見を聞き、本校の魅力を生かしていけるようにすることが必要だと考える。

8 財 務

財務、予算に関連したものとその情報公開について確認した。

今後は貸借対照表や収支決算、予算案などの資料もあるとよい。またそういった資料もHP公開など透明化していくとよい。

9 法令等の遵守

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営、個人情報保護に関する対策、自己評価の実施について確認した。

10 社会貢献・地域貢献

社会貢献、地域貢献、学生ボランティア活動、公開講座の実施について確認した。

学生時代に社会に貢献する経験を積んでもらうとよい。業団体でもコロナがなければ、ボランティア活動のイベントなどもあるので、今後活用してほしい。またボランティアを単位認定出来ないか検討する必要がある。

以上